

ふるさとわがまちづくり

城見町自治区

◆「城見町」の歴史

江戸時代から現在の各町は、それぞれ村で
ありました。城見町も小白見村でしたし、そ
の後も「大字小白見」と呼ばれていました。
昭和42年(1967年)、豊田市に合併しま
したが、3年後、町名は二字でまとめること
になり、昭和45年(1970)「城見町」と
なりました。

昔、なぜ、小白見と名が付いたのでしょ
うか。古老の話では「足助町にある黍生城の城
壁が、この地まで来ると、遠く東に小さく白
く見えたから名づいたと伝えられている」と
言っていました。今では、東の方は森林に覆
われ黍生山は望めませんが、当時は伐採され
裸山が多かったので望めたようです。地理的
にはよく合、西隣の中金町あたりからでは
よく望めます。なぜはつきりと、現在のよう
に「城見」と付けなかったかは、当時の戦国
時代では、この地から城が見えるという地名
はご法度であったからでしょう。

三河物語(1626年大久保彦左衛門著)
では「小田見村」、倭名類聚抄では「小田向
村」とあることが本音でしょう。加茂郡内
でも田が少なく、人口も少ない村の一つであり、
明治18年の「各村沿革調」では、田4町9
反余、畑2町、山林33町とあり、山林の面
積が多い村です。米の取れ高は36石9斗で
す。

近世初頭は幕府領で代官鳥山牛之助が支配
していました。慶安4年(1651年)から
明治まで大島陣屋(現足助町、石川氏)の支
配となりました。

文献では「三河軍記物語」に、「廣瀬城の家
臣で代官三河岩喜、徳川氏に志を通ず、中金
の三河加賀、同豊後、高見軍之助、小白見村
今井甚助等元康公に一味す。広瀬城主三宅右
衛門尉は城落ちて岩穴に入る。岩喜見つけて



首を取る。」との記述に、今井氏の名が出てい
ます。松平元康の頃ですから1561年頃、
今から400年以上前のこと、詳細はわかりま
せんが400年から500年以上も前からあ
った由緒ある「小白見村」です。

史跡や記録

- 元禄15年(1702) 鈴木家(勝己氏)の
古文書
- 正徳2年(1712) 薬師堂再建
- 文政7年(1824) 神明神社の再建棟札三
州加茂郡高橋庄富田
郷小白見村と明記
- 明治1年(1868) 伊那県加茂郡小白見村
- 明治4年(1868) 額田県加茂郡小白見村
- 明治5年11月(1871) 愛知県西加茂郡
小白見村
- 明治22年(1899) 西加茂郡中野村大字
小白見
- 明治39年(1906) 西加茂郡石野村大字
小白見
- 昭和30年(1955) 西加茂郡猿投町大字
小白見
- 昭和42年(1967) 豊田市大字小白見
- 昭和45年(1970) 豊田市城見町
(野口・城見自治区)
- 平成13年(2001) 城見町自治区として
自治区独立



ゆめロード、桜並木とユキヤナギの手入れ作業



神明神社

例祭 昔は旧暦6月15日(天王祭)
16日(例祭)
現在は7月第4週土、日曜日



神明神社には名木指定が2か所あります
● コナラ群名木指定第175号
● ヒノキ名木指定第176号

国道(塩の道)、県道、市道
(ゆめロード)が通る交通便
利な城見町は少ない戸数な
がら住民が一致団結して、住
みよい自然豊かな自治区づ
くりがんばっています。

城見町自治区データ

(HZO.4現在)

世帯数: 17世帯
: 15世帯(昭和52年)

組数: 2組
面積: 0.734 Km²

回覧: 月2回
防犯灯設置箇所: 4箇所
小学校: 中金小学校区
自治区会館: 城見町集会所

その他
薬師堂、神明神社14級(脇社:御嶽社、津島社)
山の神、金毘羅宮、秋葉山社
老人いこいの家(薬師堂内)
中金こども園、豊田パブリックゴルフ場
市道ゆめロード(生活道路)